

一般公開に
おいでください!

7月21日に加速器室などを一般公開

サガハイマツトは7月21日(土)に年1回だけの機会となる施設の一般公開を行います。玄関ロビーをはじめ、治療室や直径20メートルのシンクロトロンがある加速器室など、普段は入ることができないところも見学ができます。また、各見学ポイントではスタッフが重粒子線がん治療について説明します。

当日は、サガハイマツトの正面玄関で先着順に受け付けます。事前申し込みは不要ですが、施設管理の都合上、受け付けの際に、住所、氏名の記載が必要となります。また、サガハイマツトの駐車場は利用できませんので、公共交通機関をご利用ください。

※診療や装置の状況、その他やむを得ない理由により、一般公開の一部または全てを予告なく中止する場合があります。



加速器室での説明の様子

日時 **7月21日(土)13:00～16:00**
※最終受け付けは15:30
受付場所 **サガハイマツト正面玄関**
問い合わせ **佐賀国際重粒子線がん治療財団**
TEL 0942(81)1897
Eメール saga-himat@saga-himat.jp

スタッフ紹介



メディカルクラーク
古田 絵美さん



メディカルクラーク
森 真美さん



診療情報管理士
林 亜由美さん

●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん医療の充実につながるサガハイマツトへのご支援をよろしくお祈いします。

なお、当財団へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当財団までお問い合わせください。

サガハイマツト通信 vol.21

(平成30年7月号)

【お問い合わせ】

発行 ■ 公益財団法人
佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当)本村
所在地 ■ 〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町 3049 番地
TEL ■ 0942(81)1897 FAX ■ 0942(81)1905
HP ■ <http://www.saga-himat.jp/>

サガハイマツト通信

Vol.21

(平成30年7月号)

7月21日に一般公開



一般公開でスタッフから重粒子線治療の方法などの説明を受ける参加者(2017年7月の一般公開から)

- CONTENTS ●中川原章 理事長 インタビュー
●データで見るサガハイマツト
●一般公開のお知らせ
●【スタッフ紹介】メディカルクラーク・診療情報管理士のみなさん



サガハイマツトは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

サガハイマツトの受診に関する相談窓口

電話 **0942-50-8812**
(受付時間:平日の9時～12時、13時～17時)
メール saga-himat@saga-himat.jp

九州国際重粒子線がん治療センター(愛称:サガハイマツト)

開設から5年 治療患者数2700人超す

中川原章
理事長
インタビュー



【略歴】
なかがわら・あきら／1947年生まれ。72年、九州大学医学部卒。千葉県がんセンター長を経て、2014年4月、地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館理事長に就任。15年6月から公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団理事長に就任。鳥栖市出身。

サガハイマツトは5月で開設から丸5年がたちました。また、最新の照射技術を搭載した3番目の新治療室も今年3月から稼働しています。サガハイマツトのこれまでの総括と、今後の重粒子線治療の展望について、中川原章理事長に聞きました。

▼サガハイマツトは、開設から5年が経過しました。これまでを振り返っての印象はいかがでしょう。

2013(平成25)年5月に開設し、これまでに2700人を超える患者さんを治療しています。これまでサガハイマツトが順調に推移してきたのは、医療スタッフをはじめとするサガハイマツトに関わる全ての方々のおかげであると感謝しています。また、JR新鳥栖駅の目の前という立地の良さに加えて、佐賀県医師会をはじめとする各地域の医師会や九州各県の大学病院など、オール九州での広域医療連携が機能していることも大きいですね。

このような中、2016年4月に骨軟部腫瘍、今年4月には前立腺がんと頭頸部腫瘍の一部に対する重粒子線治療が公的医療保険の適用となったことは、この5年間での大きな変化と言えます。重粒子線治療の有効性が評価され、多くの人により身近な治療として認識してもらえるようになり大変うれしく思います。また、新治療室も長い準備期間を経て、今年3月から稼働しました。これで3室体制となり、より多くの患者さんの治療ができるようになりました。

▼新治療室の特徴について教えてください。

まず、重粒子線がん治療は放射線治療の一つで、光の速さのおよそ7割に加速した炭素イオンをがん病巣に狙いを絞って照射します。従来の二つの治療

室では細い重粒子線をいったん拡大し、がん病巣の形にぴったりと合わせて照射していましたが、新治療室はスキャニング照射という最新の技術を搭載しており、がん病巣を一筆書きで正確に塗りつぶすように照射することができます。従来よりも照射可能ながん病巣のサイズが一回り大きくなり、でこぼこした複雑ながんの形にも照射しやすくなります。また、この治療は患者さん専用の照射器具を製作しなくていいため、治療開始までの準備期間を短縮できることも特徴ですね。

今は前立腺がんから治療を始めていますが、徐々に他のがんにも広げていく予定です。ただし、がんの状態によっては従来の照射法が適している場合もあるので、サガハイマツトでは患者さんに適した照射法を選択し、治療にあたっていきます。

前立腺がん、頭頸部腫瘍の一部 4月から公的医療保険適用

▼今年4月から前立腺がんと頭頸部腫瘍の一部が新たに公的医療保険の対象となりましたが、その反響はいかがでしょう。

前立腺がんと頭頸部腫瘍の一部が新たに保険適用になったことは患者さんにとって大きな朗報です。重粒子線治療の先進医療での治療費は314万円ですが、今回の適用拡大を受けて、例えば前立腺がん

の治療費は160万円となりました。患者さんの負担はその3割までで、さらに高額療養費制度を利用すると年齢や収入でも異なりますが、10万円前後で治療を受けることができるようになりました。

サガハイマツトでの前立腺がんの患者割合は6割以上、頭頸部腫瘍と骨軟部腫瘍を合わせると全体の約7割が保険適用になります。実際、4月以降の受診予約数はこれまでの2倍近くになっていて、予想をはるかに超える反響の大きさです。このような患者さんの期待に応えるため、医師や看護師などスタッフを増員しました。これからも、きめ細やかに状況を把握し、対応していきたいと考えています。

今年11月、佐賀市で粒子線治療の国際シンポジウム開催

▼重粒子線治療の今後の展望について教えてください。

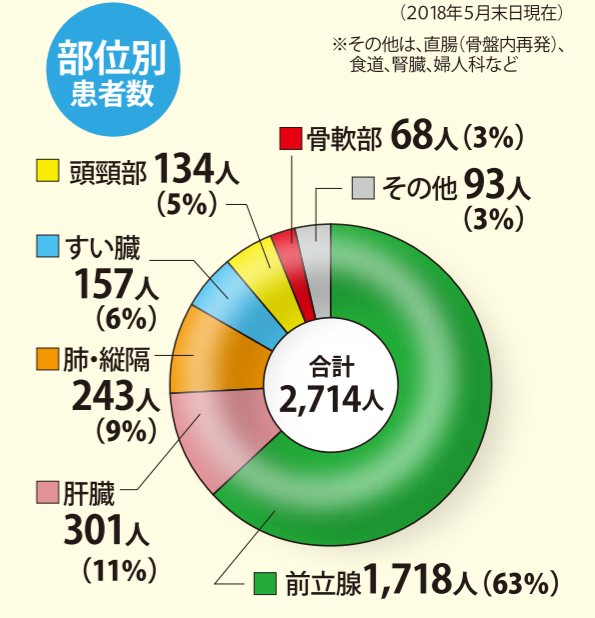
サガハイマツトでは八つの臓器ごとに検討班会議を設け、定期的にそれぞれの検討班ごとに診療科や病院の垣根を越えて専門家から意見をうかがい、患者さんにより良い診療を提供できるようにしています。また、現在、先進医療として実施している肺がんや肝臓がん、膵がんなどに対し、全国統一のプロトコル(治療実施計画)に基づいて臨床試験を行っています。このように他の重粒子線治療施設と連携して治療実績を積み上げていくことで、重粒子線治療の有効性が客観的に評価されていくものと思っています。また、保険適用の拡大により重粒子線治療がより身近な治療になってきているので、多くの方にその良さなどを理解してもらえたらと思います。

また今年11月には佐賀市で粒子線治療の国際シンポジウムが開かれ、海外からも多くの研究者が

データで見るサガハイマツト

(2018年5月末日現在)

※その他は、直腸(骨盤内再発)、食道、腎臓、婦人科など



訪れます。重粒子線治療と免疫療法の併用は世界で期待されているトピックスです。日本の重粒子線治療を世界へPRする場として、有意義な大会にできるよう取り組んでいきます。

▼中川原理事長は、長年研究してきた小児がん「神経芽腫」で、比較腫瘍学常陸宮賞と国際神経芽腫学会の特別功労賞を受賞されました。今の気持ちは。

ある日突然がんの進行が止まり、回復するという乳幼児の神経芽腫の奇跡のような症例を学生時代の講義で聞き、そのメカニズムを解明することをライフワークにしてきました。神経芽腫は極めてまれな病気ですが、研究を続けてきたことで神経芽腫の自然治癒の鍵を握る遺伝子などを発見しました。父をがんで亡くしたのが医師を志した契機でした。ダブル受賞はとても光栄ですし、この成果が小児がんの克服に役立てば本望です。